



第2章 モーセの祈り

モーセ④

とりなし手としてのモーセ
罪を犯した者たちのためのとりなし
とりなし手のための個人的な啓示



Check!

- 『聖書の祈りが私の祈りになる』（旧約編） 104～111ページ
- 主な引用箇所 出エジプト記32章、33章12～23節、34章6～7節、申命記9章20～28節

? 質問

- 1 モーセは何を最も心配して祈っていたと言えますか？（104ページ参照）神がモーセに語られた（出エジプト記32章10節）のは、モーセが何をすることを神が期待していたからですか？（104～105ページ参照）
- 2 モーセの祈りにおいて、特に重要なことは何ですか？（107ページ参照）私たちは時代が終わりに近づくにつれて、神の裁きがこの世に下されることを理解していますか？そして、モーセのようなとりなし手が必要とされていると理解していますか？
- 3 神はご自分に従わないイスラエル人とは一緒に行かないと宣言されました。ここに見られる「恐るべき真理」とは何ですか？（108ページ参照）このような状況でなぜモーセは希望を持つことができましたか？（108～109ページ参照）誰かのために祈る以前にもう無理だとあきらめてしまっていることはありませんか？
- 4 モーセの祈りの中で、特にすばらしく、神の子どもならば誰もが祈るにふさわしい祈りは何ですか？（109～110ページ参照）あなたはモーセのように祈っていますか？
- 5 モーセのとりなしの祈りに新しい確信を与えたものは何ですか？（111ページ参照）あなたは、神ご自身と出会うことによって確信が与えられ、さらに祈ることができたという体験がありますか？



天の父なる神さま。私をとりなしの祈り手として召して下さって感謝します。私の信仰はあまりにも弱く不完全で小さいものです。どうぞあなたの恵みによってあなたご自身をさらに知ることによって信仰を強めてください。